

知床の森から

平成23年7月 第132号



知床森林センター広報誌

北海道森林管理局 知床森林センター
〒099-4355 北海道斜里郡斜里町ウトロ東番外地(国設知床野営場内)
電話 0152-24-3466 FAX 0152-24-3477
ホームページ <http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/siretoko/index.html>



2011・国際森林年



最新イベント報告

○ 2011国際森林年「樹木医と歩く知床の森林」



7月9日(土)、樹木医「鈴木順策」先生を講師にお招きし、森林について学びながら散策を楽しむイベントを、オホーツクみどりネットワークとの共催、また道民カレッジ「ほっかいどう学」出前講座の併催イベントとして開催しました。遠くは札幌からもご参加いただき、60才代を中心に4才から74才までの男女計49名でのイベントとなりました。

最初に講師から「オホーツク地域の森林の特徴と物質循環」についての事前レクチャーを受け、その後森林散策を開始しました。樹高30mを超える何本もの巨木の脇を通りながら、樹木や森林土壌、キノコなどの菌類、そしてエゾシカをはじめとする動物などによって構成される森林生態系とその相互における物質循環について、樹木医の解説の下、実際に目で見て肌で感じながら知床の原生的な森林を散策しました。

また、散策の途中にはエゾシカによる樹皮食害防止のためのネット巻きのデモンストレーションを行いました。デモンストレーションにあたっては、職員の説明の下、参加者に対象木の直径の計測・ネットの裁断および巻き付けの作業を行っていただきました。参加者には、改めて森林保護のための被害防止策の困難さや苦勞を理解していただけた様子でした。



参加者からは、「木がいかにか地球と宇宙の中で輝きながら生きていることに感動しました」「自然の中で、木々の息遣い、動物の営み等が実感できた。」「自然の偉大さを知るとてもいい機会になりました。」「木に人間の生き方を学ぶという樹木医の先生のナビゲートに感動しました。」との感想が寄せられました。

国際森林年の本年、知床の原生的な「森を歩く。」ことを通じ、森林の重要な役割に思いを馳せる良い機会になった約4km、3時間の森林散策となりました。

第106、107回森林レクリエーションin知床「春の知床森林散策～幻のポンホロ沼～」

(実施日：6/8および6/11)

今回は、知床自然観察教育林内であって融雪期にだけ姿を現すことから「幻の沼」と呼ばれるポンホロ沼周辺と、羅臼町内の母子熊の親子愛にまつわる言い伝えで知られる熊越えの滝遊歩道における森林散策を実施しました。

ポンホロ沼周辺の散策は人気のイベントですが、一度に大勢が入ることが難しいため、今年度は催行を2回に増やし合計51名をご案内しました。トドマツやダケカンバ、シウリザクラ等からなる森林の中で、倒木更新に見られる森林の遷移の様や、エゾシカの食害を受けながらもかろうじて繋がっている部分により生き続けている樹木の生命力、そして笹と林業との関わり等についての解説を行いました。



熊越えの滝の散策は今年度の新たな試みです。北見・網走方面の方々は、日帰り観光でウトロまでは来ても、羅臼町内まで足を伸ばすのはなかなか難しいと考えての企画です。結果、かけ足にはなりましたが、季節の推移に若干の時間差がある両町において、ポンホロ沼では深まった緑を、そして熊越えの滝では早春のみ見られる春紅葉を、それぞれ一日の行程の中で楽しむことができました。

参加者からは「神秘的な沼の存在感に感動した」「(倒れたり、中が空洞になっても生きている木を見て)木の生命力を感じる」「(熊越えの滝では)水がほんとうにきれいで気持ちいい」などという声が聞かれる中、無事にイベントを終了させることができました。

ロングランイベントのお知らせ

「夏休み森林教室」

森の中でのゲームや観察会などを取り入れた、簡単な森林教室を開催します。知床の森や木に触れ楽しく遊びましょう♪どなたでもお気軽にご参加ください。

期間：7/25(月)～8/30(火)の平日

時間：16:00～

参加料：無料

所要時間：40分程度

場所：国設知床野営場付近

「知床森の写真コンテスト～僕も私も森のカメラマン～」

森林センターでは知床の森林の写真を募集します。知床の森林の魅力を写真に収めて多くの人に伝えてみませんか？応募作品は森林センター内展示やHP等により紹介いたします。また、後日審査を行い、優秀作品には森林センターならではの賞品を進呈いたします。多くのご応募お待ちしております!!

撮影対象：知床世界自然遺産地域及びその隣接地域(斜里町および羅臼町の行政区域内)の森林、樹木および森林を背景とした動植物、人物、建造物。

参加方法：知床森林センターにて応募料金を添えてデジタルデータで提出(タイトルを付すこと)

募集期間：7/22(金)～8/30(火)

応募規定：デジタルカメラによる撮影作品とし、一人一点、未発表のものに限る。

応募料金：200円 ※応募者にはもれなく記念品をさしあげます

審査結果：最優秀賞1点、優秀賞2点、特別賞1点。(9月中旬に当選者へお知らせするほか、当センターHP等で発表)

「夏休み木工体験」

松ぼっくりや木の枝などを利用して自由な発想でオリジナルな作品を作りましょう。知床の夏の思い出や自由研究にいかがですか。

期間：7/1(金)～8/30(火)

参加料：100円 ※キット利用の場合は別途

ロングランイベントの報告

6月28日で第二弾のロングランイベント「ポストカードを作ろう～紙すき紙大すき!!～」が終了しました。地元の方を中心として、遠くは関東圏からのご参加もありました。紙をすく作業に苦労した方が多く見られましたが、草花や落ち葉をすき込んだり、イチイやキハダ等の樹皮を煮出した染液でアレンジを加えるなど、オリジナルのポストカード作りを楽しんでいただきました。

コープさっぽろコラボ企画「知床の森の散策と楽しいシイタケほだ木づくり」

6月6日(月)、コープさっぽろ北見地区本部(以下「コープさっぽろ」とします。)との提携イベント「知床の森の散策と楽しいシイタケほだ木づくり」を開催しました。これは、国民参加の森づくりを促進するための緑化思想の啓発を行う当センターと、食を通じた社会活動を行うコープさっぽろとの、言わば「木育と食育のコラボ」企画で、融雪期のみ出現する「幻のポンホロ沼」周辺の森林散策と、シイタケのほだ木づくりを行いました。また、散策前には知床峠に立ち寄り記念写真を撮りました。天気にも恵まれ、知床の森林の魅力を感じるには最適な一日だったのではないのでしょうか。

後日お礼状が届き、職員の大きな励みになっています。このような森林に触れる機会を提供し、より多くの方に普段の生活の中で森林や林業に対する関心を持っていただけるよう、引き続き努力していきたいと考えております。



調査業務の現場より

自動撮影調査

今年度の自動撮影調査の前期調査として7月1日、カメラを設置してきました。この調査は平成20年より野生動物の森林利用状況及び生態を観察するため、赤外線センサーによる自動撮影カメラを設置し調査を行っています。撮影された結果から、動物たちの分布状況や生息密度など少しずつわかってきました。

これまでの調査では、エゾシカはもちろん、ヒグマ、エゾモモンガなど様々な動物たちが写っていました。今回はどんな動物が顔を見せてくれるかな～
調査結果についてはホームページや広報紙などで報告します。



東京農業大学「オホーツク学」体験実習

7月16日(土)、東京農業大学オホーツクキャンパスの学生9名が「オホーツク学」の体験実習として、イチイ林木遺伝資源保存林周辺にて樹皮食害防止ネット巻きを行いました。現地では、実際に食害を受けた樹木を目の当たりにし、知床の森の現状にとっても驚いていました。作業は、イチイ、オヒョウニシを対象に2班で各4本ずつ、計8本にネットを巻きました。学生からは「とても充実した実習でまたやりたい」「来て良かった」等の声も聞かれ、今後この森林をどう護っていくか、どのような対策が必要か、あらためて考える良い機会になりました。



その他の活動の紹介 ～地域の各種行事にも参加しています～

5月20日(金)～22日(日)、北見市内で開催された「オホーツク「木」のフェスティバル」に出展しました。当センターからは、主催するイベントPRの他、エゾシカによる樹木被害の現状を実感し森林保護の必要性を啓発するものとして、知床の森林で風倒木となった後にエゾシカに樹皮を食べられたイチイの枝を会場に持ち込み、来場者に輪切りにしてもらい「木ホルダー」を作っていただきました。エゾシカによる被害木を初めて目の当たりにした方も多く、多少なりとも現状をお知らせできたのではないかと思います。



6月4日(土)、NPO法人知床自然学校と遊々の森協定を結んでいるアッカムイの森(斜里町真鯉地区)において、同法人主催「どんぐりの里親プロジェクト」(全国の里親にドングリを発芽・育苗してもらい、その苗木を知床の森に植樹するもの)の植樹指導で参加しました。参加者は、植樹場所の土おこしからこれまで育ててきた苗木の植え付けまで、愛情を込めて実施しました。



また、その翌週の6月12日(日)、ウトロ小学校の生徒が所属している知床自然愛護少年団の植樹活動に、同じく植樹指導として参加しました。当日は前日の雨で足場がぬかるんだ状態でしたが、子どもたちは元気一杯に土を掘り、苗木を植えて知床の自然を肌で感じていました。

6月21日(火)、近隣1市4町(網走市、斜里町、清里町、小清水町、大空町)の社会教育担当者が、地域資源を活かした体験プログラムの実践をテーマとした研修のため来館しました。

当センターからは、組織上の位置付けや提供プログラム等の説明を行った後、ロングランイベントで実施していた紙すき体験を行っていただきました。



7月2日(土)、国設知床野営場の敷地を使って地元ウトロ小学校2、3年生14名の親子レクリエーションが行われました。フキやイタドリを使った「ひみつ基地作り」です。

当センターからは、ロープやシートなどの資材の提供の他、基地作りのアドバイスや安全指導のお手伝いをしてきました。



7月4日(月)、斜里町自治連合会女性部54名が研修のため来館しました。町内の施設訪問ということで、当センターからはセンターの沿革や業務、そして遊歩道等の施設紹介等を行いました。中には当センターがウトロに移転した時期を知らない方もいて、情報発信について考えさせられる場面もありました。



知床 は今

東日本大震災から5ヶ月近くが経ちますが、この猛暑の中で今なお避難生活を強いられている方々に対しまして心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早く心穏やかに暮らせる日が来ることをお祈り申し上げます。

さて、福島第1原発から直線で約810kmの知床は、一見平静を保っているかのようです。しかし、海域に流れ出た放射能汚染水が魚類に及ぼす影響や、北海道では収穫量が少なく関東等のエリアに頼っている農産物の土壌からの影響、それにも増して、大気中に含まれる放射能物質の濃度の数値が本当に安全といえる数字なのか。などなど不安の声を耳にする機会は数多くあります。知床に限ったことではありませんが、とりわけ、サケ・マス水揚量日本一を誇る斜里町では、街自体の活気を左右します。また、各方面のご努力により海外からの観光客数は回復傾向にあるものの、未だ完全には戻らず、これもまた街の活気を左右しています。

「がんばろう！日本」を合言葉に、これまでがんばってきた人たちとともに、「がんばろう！東北」、「がんばろう！知床」、「がんばろう！〇〇」と、まだまだ「がんばろう！」(ヒ)

追記：なでしこジャパンのようにねばり強く「がんばろう！」



ボランティア活動施設から

7月に入り、ウトロの街はまもなく本格的な観光シーズンを迎えます。これから多くの方を迎えるにあたり、この度、展示スペースをリニューアルいたしました。「木のボンホロ沼」を中心とする「木育コーナー」を展示施設中央に移動させ、その周囲に図書・情報学習コーナー、知床の生態系の繋がり等を紹介するDVDを上映している大型TVやミズナラの年輪、そして当センターで行っている各種調査の紹介や四季折々のパネルなどを配置しました。

これによって、玄関に立った瞬間にDVDの音声が耳に入り、そこから一歩踏み込むとTV画面や木育コーナー、そして展示中の各種パネル類が一望できるようになっています。

8月21日(日)までは休館日を設けず、さらに開館時間を延長しています(9:00~19:00)。知床を訪れる際は、ぜひ足をお運びください。(ナ)



8~9月のイベントのお知らせ

詳しくは知床森林センターHPかお電話でご確認下さい。

実施月日	イベント名	場所・定員	申し込み期間等
8月3日(水)	【夏休み企画】 木工作と紙すき教室	知床森林センター 定員20名(先着)	7月28日まで お電話でお申し込み下さい
9月18日(日)	植樹と海産物加工体験 (~森と海のつながり~)	羅臼町 定員20名(予定)	8月中旬~9月上旬予定 (HPIにてお知らせします)

その他のお知らせ

- 8/28(日) 知床しゃり楽市・楽座(斜里町)にブース出展します。
- 9/26(日) しれとこ産業まつり(斜里町)にブース出展します。

☆ 知床森林センターホームページ。「ブログ・知床の四季」では旬な知床情報をお届けしています！

→ <http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/siretoko/index.html>



この広報誌は道産間伐材を使用しています。